

エンテロウィルスD68感染症の 症状再現性について

山辺こどもクリニック

板垣 勉

山形県衛生研究所微生物部

的場 洋平

田中 静佳

青木 洋子

矢作 一枝

水田 克巳

山形大学医学部感染症学講座

松寄 葉子

第26回日本外来小児科学会年次集会

COI開示

開示すべきCOI関係にある企業などはありません

筆頭演者 山辺こどもクリニック 板垣 勉



【はじめに】

2015年に流行したエンテロウイルスD68(EV-D68)感染症は山形県内では2005年,2010年,2015年に流行している。2010年以前の感染例について第115回日本小児科学会学術集会で報告している。2015年の流行時に小児神経学会,小児アレルギー学会などで大規模な疫学調査が行われたが、1年間のデータではEV-D68の症状,症例の偏りが問題となる。

1医療機関で検出されたEV-D68感染者の症状を2010年,2015年で比較した。

<EV-D68流行の把握>

山形県でのウイルスサーベイランス（山形県衛生研究所で実施）

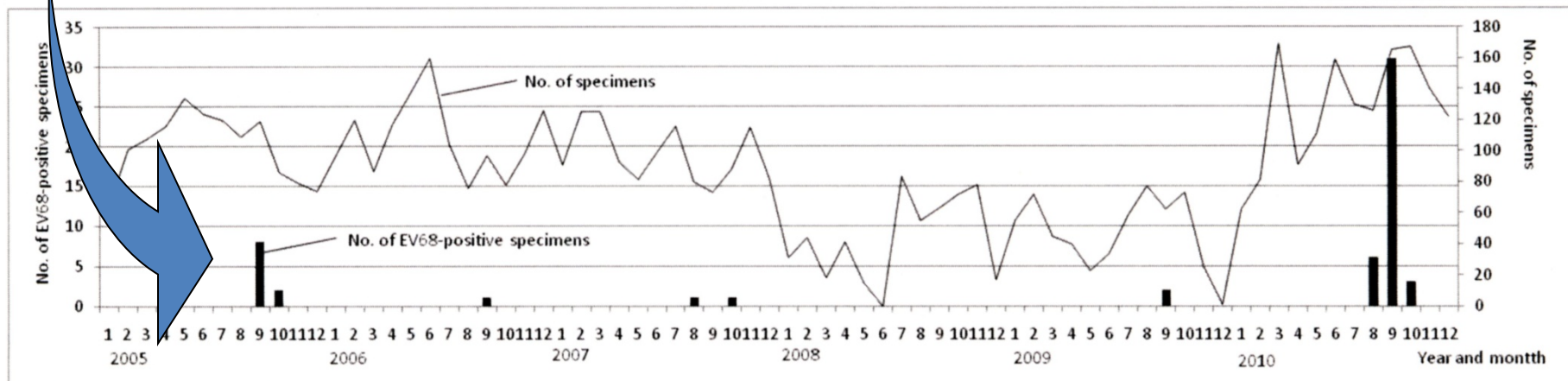
- ・長期間のデータがある。（今回は2010年から2015年までのウイルス検出数を使用）

2005年の9月-10月にもEV-D68の流行があった

Acute respiratory infections due to enterovirus 68 in Yamagata, Japan between 2005 and 2010

Tatsuya Ikeda, Katsumi Mizuta, Chieko Abiko, Yoko Aoki, Tsutomu Itagaki, Fumio Katsushima,
Yuriko Katsushima, Yoko Matsuzaki, Naoko Fuji, Tadatsugu Imamura,
Hitoshi Oshitani, Masahiro Noda, Hirokazu Kimura and Tadayuki Ahiko

Microbiol Immunol 2012; 56: 139–143



2005年～2010年のEV68感染症

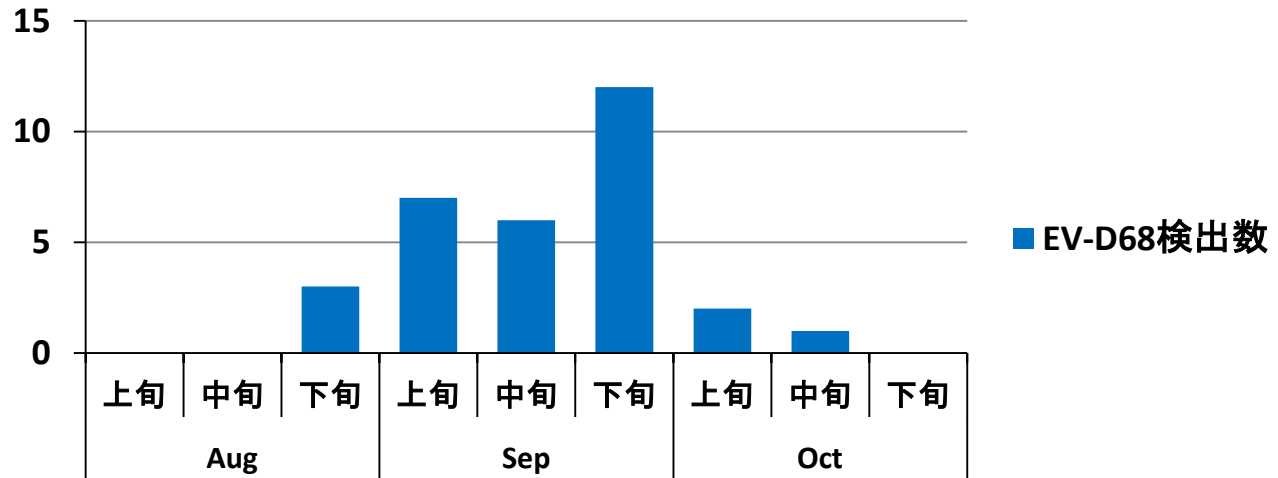
- 1) 数年おきに8～10月に流行。
- 2) 罹患年齢は3歳以下で48.9%。
高い年齢層でも罹患している。
- 3) 最高体温 $38.1 \pm 0.7^{\circ}\text{C}$ 有熱期間 1.7 ± 1.2 日。
WBC 10900 ± 3400 CRP 1.4 ± 1.0 mg/dl
- 4) 喘鳴(34.9%)を起こしやすく、紹介率(9.3%)と高かった。
- 5) Episodic viral wheezeのウイルスとして重要か？

【対象と方法】

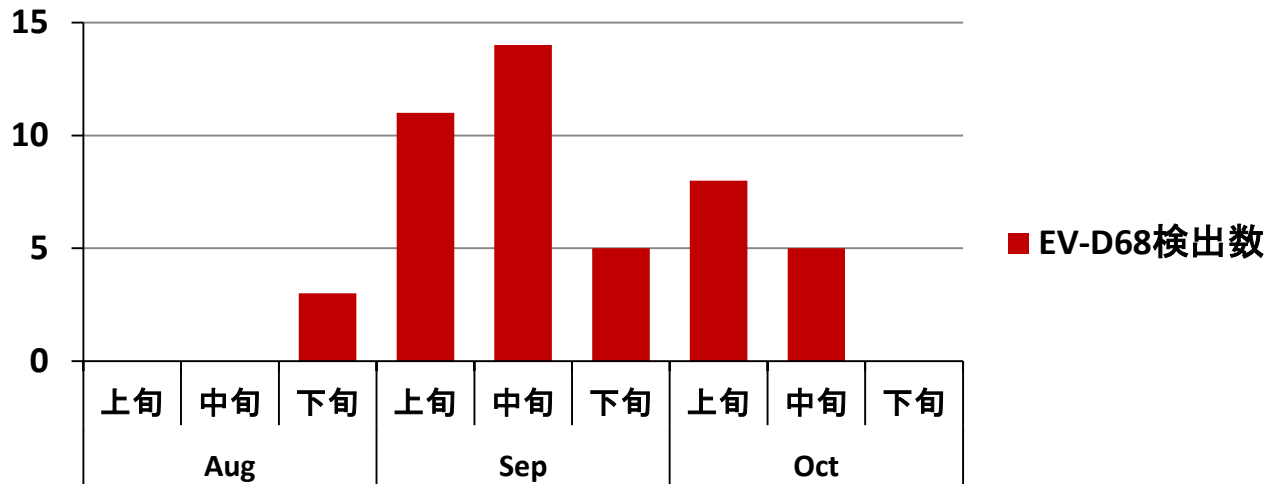
2010年,2015年の8月から10月に山辺こどもクリニックを受診し、保護者の同意を得て鼻咽腔吸引液採取を行いEV-D68が検出されたそれぞれ31例(年齢中央値3歳,5か月~15歳),46例(年齢中央値4歳,7か月~15歳)の症状を後方視的に比較した。

EV-D68の月別(上旬、中旬、下旬)検出数

2010年
(n=31)

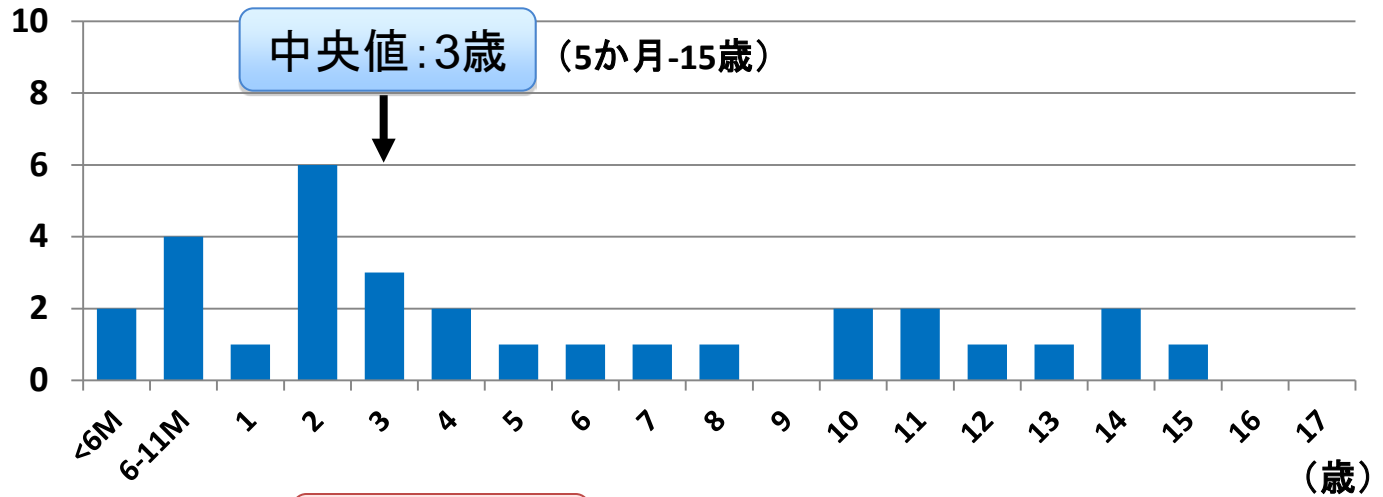


2015年
(n=46)

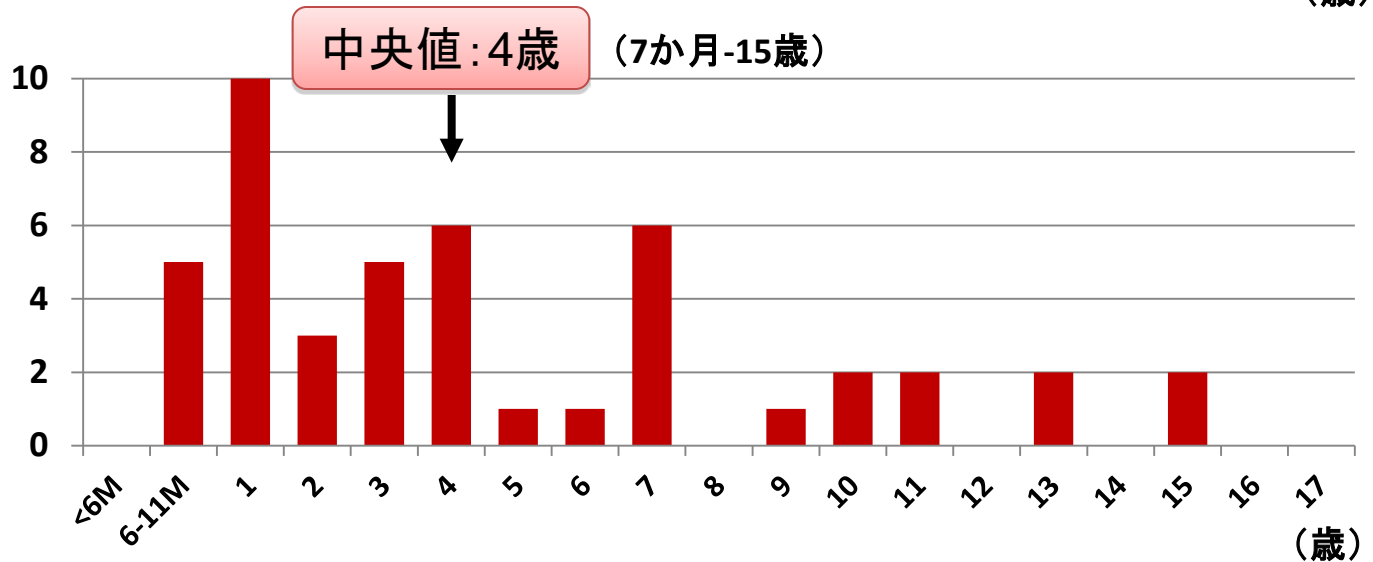


EV-D68感染者の年齢分布

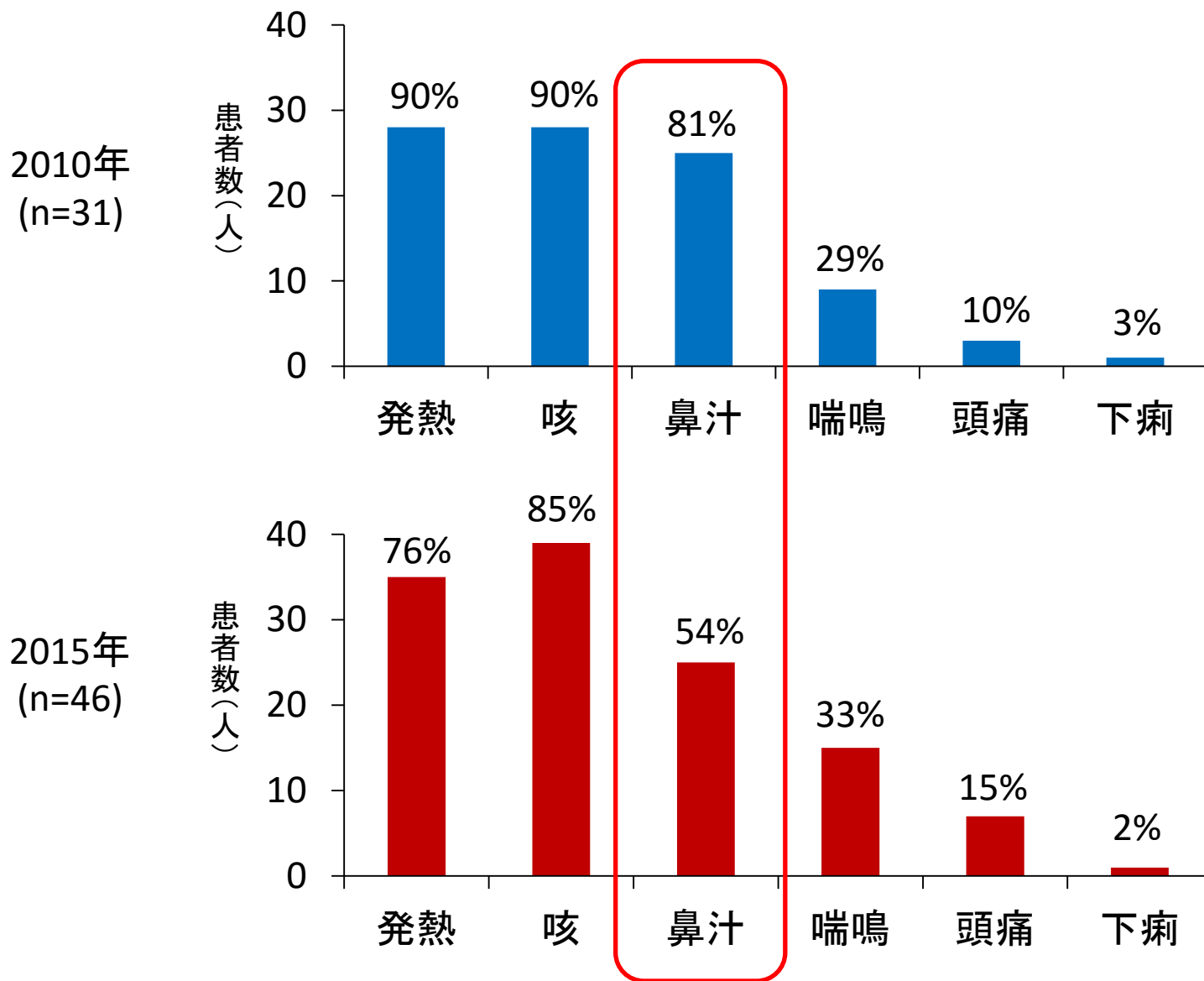
2010年
(n=31)



2015年
(n=46)

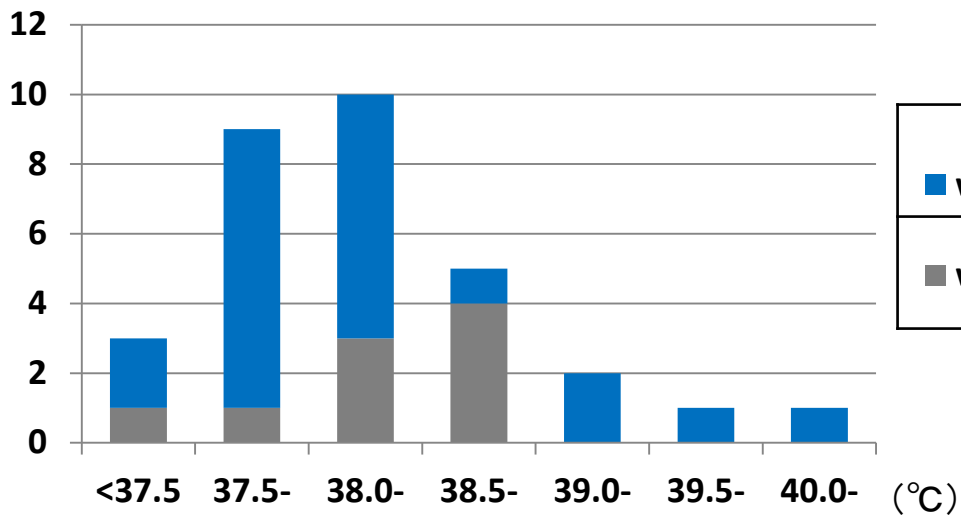


EV-D68感染者の主要な臨床症状



最高体温

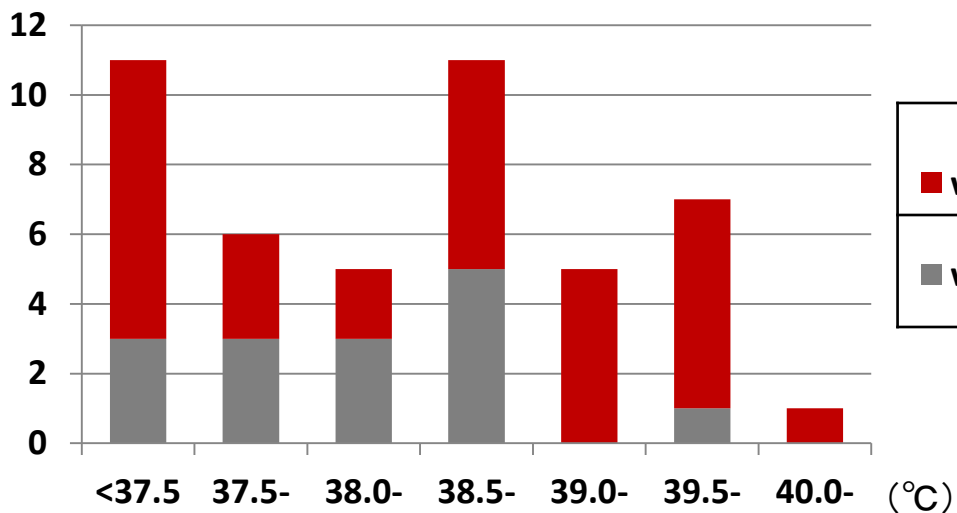
2010年
(n=31)



最高体温の平均

■ wheezingなし	38.2°C
■ wheezingあり	38.3°C

2015年
(n=46)

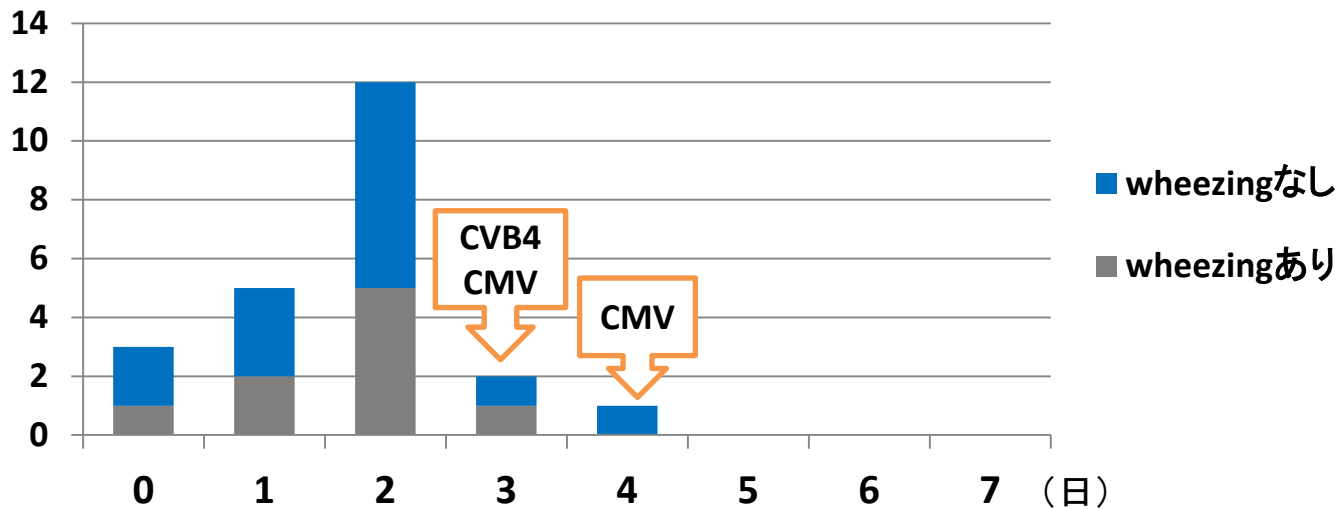


最高体温の平均

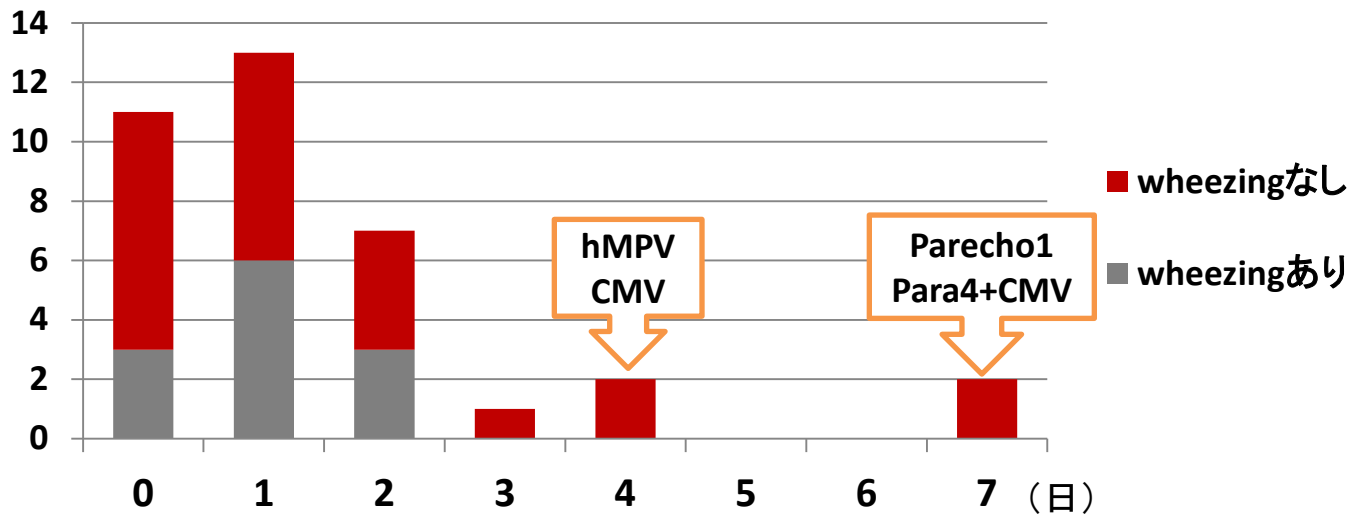
■ wheezingなし	38.2°C
■ wheezingあり	38.2°C

有熱期間

2010年
(n=23)

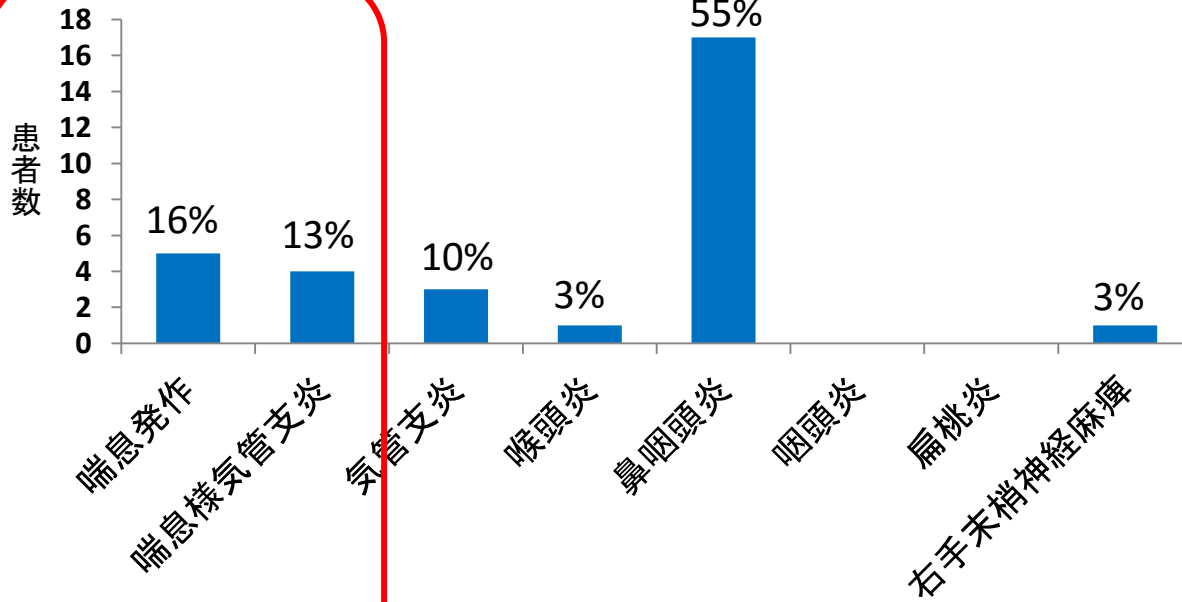


2015年
(n=36)

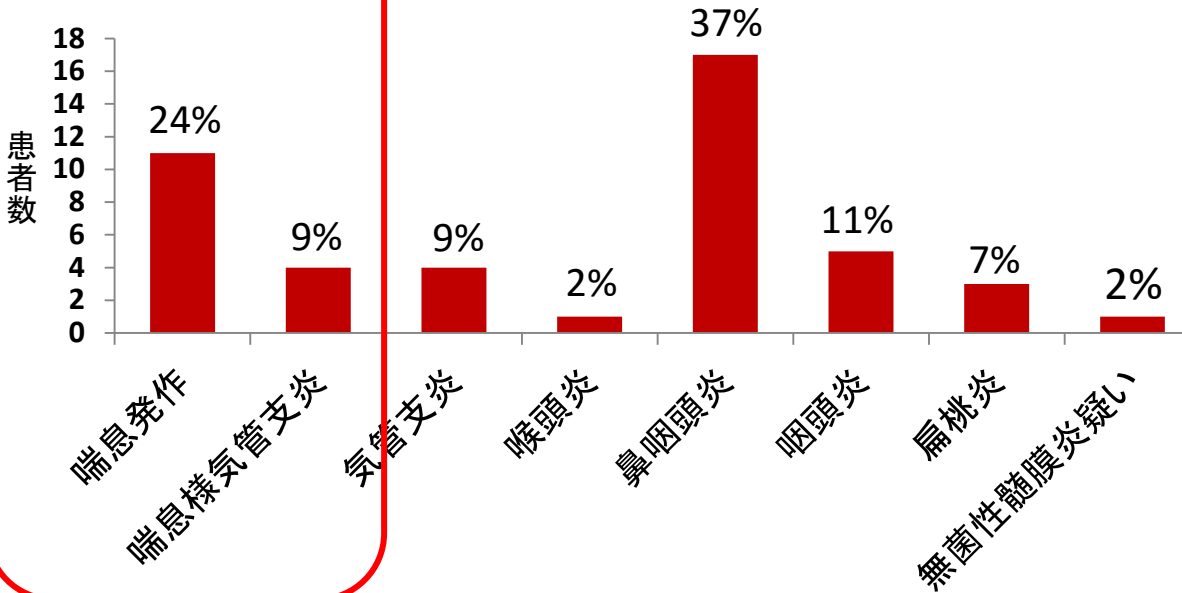


臨床診断名

2010年
(n=31)



2015年
(n=46)



EV-D68感染症の特徴のまとめ

8月から10月にかけての1か月半から2か月間の流行

発熱、咳、鼻汁の呼吸器症状で発症するが、発熱は無い場合もあり、あっても1日ないし2日間で下がる。

喘鳴を伴わない場合は、比較的軽い鼻咽頭炎または咽頭炎が多い。

喘鳴は約30%で伴うが、その場合は重症な喘息発作を引き起こすケースが多く、ほとんどの症例で喘息の既往またはアレルギー素因を持っている。

弛緩性麻痺、無菌性髄膜炎の発症はアレルギー素因とは関係なさそう。

—強い後頸部,背部正中の痛みの場合には弛緩性麻痺に注意が必要—